

2 研究の実際

(4) 校内研究の推進・充実のための方策の実施

実践④ 小・中学校の壁を越えた協議を目指した授業研究会〔D中学校(小中一貫校)における実践〕

D中学校は、小中一貫教育の実施に先立ち、昨年度まで学力向上に関する合同研修会を行ってきましたが、校内研究の取り組み方に小・中学校で違いが見られました。そこで、今年度は、児童生徒理解をするに当たり、小・中学校が同じ視点で協議するために協議の形態を工夫したりファシリテーターの役割を充実したりしました。このような手立てにより、小・中学校の協議を円滑に進め、出された意見を基に児童生徒の実態に応じた支援について共通理解することを目指しました。

校内研究の年間計画

月	PDCAの段階	各段階の取組
4月	P 校内研究のスタート	<p>○研究主題と内容及び年間計画の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の主題を確認するとともに、内容について共通理解を図る。 ・校内研究を15回予定し、そのうちの3回は全体での研究授業及び授業研究会を実施する。また、小1～小4担当、小5～中1担当、中2～中3担当のグループごとに全員が研究授業を実施する。
5月 ↓ 11月	D 実践 	<p>○研究授業及び授業研究会に向けた取組(p)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場におけるワークショップ型の選定を行い、授業研究会の進め方について説明資料を準備する。 <p>○研究授業(d)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体での研究授業及び授業研究会を年3回実施する。 ・小1～小4担当、小5～中1担当、中2～中3担当のグループごとに全員が研究授業を実施する。 <p>○授業研究会(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の視点に基づいた協議を、ワークショップ型で行う。 <p>○日々の教育実践(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議した内容を基に、5W1Hを用いた実践計画に沿った実践を行う。 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">※p d c aを繰り返す。</p>
12月 ↓ 2月	C 評価	<p>○今年度の校内研究の取組の振り返りと改善点についての協議</p> <p>○まとめの作成</p>
3月	A 改善	○次年度に向けた校内研究推進計画の作成

意識調査

校内研究に関する意識調査の第1回を実践前の7月に、第2回を実践後の10月に行いました。

第1回意識調査の中の質問項目I-1-①「研究目標や研究の方向性を理解していますか」、I-1-③「日々の教育実践に校内研究の取組を生かしていますか」ということについては、どちらの質問項目も33.3%の教師が「どちらかといえばそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答していることを課題として捉えました。

活用したワークショップ型とそのねらい

第1回意識調査で挙げた課題を解決するために、以下のワークショップ型を選定しました。また、指導案拡大法とワールドカフェは組み合わせて活用しました。

○指導案拡大法

協議内容が焦点化するように、授業の気付きを記入した付箋を拡大指導案に貼って確認しながら小1～小4担当、小5～中1担当、中2～中3担当の3グループで協議しました。拡大指導案は各グループに1枚ずつ準備しました。

○ワールドカフェ

授業研究会で協議内容の共有化を図りながら研究目標や研究の方向性を理解するために、ワールドカフェを用いました。

○5W1H

日々の教育実践に校内研究の取組を生かすために、協議で出された内容を基に5W1Hを用いて実践計画を立てました。

実践に当たって工夫した点

○実践に取り組む前に、ファシリテーターを務める教師が、研究会の目的及びファシリテーターに求められる3つのスキル*（「質問」のスキル、「傾聴」のスキル、「対立を支える」スキル）について確認しました。3つのスキルを意識してグループ協議を運営することで、協議内容の共通理解を図りました。

* 3つのスキルについては、「2研究の実際 (3)校内研究の推進・充実のための方策 ④校内研究の進め方・生かし方 イ授業研究会等の進め方—ワークショップ型の活用例と手法の紹介—ファシリテーション」を参照

事前の取組

「本研究で提案する事前の取組例」に沿って行いました。

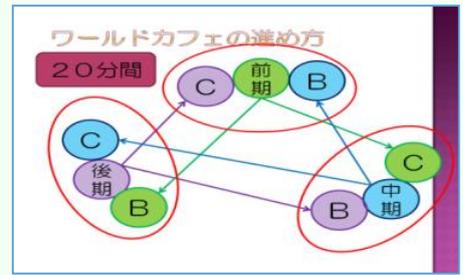
[「本研究で提案する事前の取組例」はこちら](#)

授業研究会の実際

～ 第2回全体授業研究会の取組 ～

活動	分	活動の具体
1 開会 2 授業研究会の進行確認 3 授業者の自評 4 質疑応答	5 5	・説明資料を用いて、授業研究会の進行について確認した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">研究協議…ワークショップ</p><ol style="list-style-type: none">① 研究会の進め方 確認② グループでワークショップ 「視点1・2の成果と課題について」 最初は、指導案拡大法の流れで行う 次に、ワールドカフェによる意見交流③ 全体でのまとめ（時間的に余裕があれば）④ 今後のとりくみについての計画<p style="text-align: right;">授業研究会進行の説明資料</p></div>
5 指導案拡大法とワールドカフェを組み合わせたグループ協議	50	・グループ協議を始める前に留意点について確認した。 <div style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"><p style="text-align: center;">グループ協議の留意点</p><ol style="list-style-type: none">① 研究授業を振り返りながら、授業の視点に沿って話し合う。② 確認した3つのスキルの役割内容をファシリテーターが実行する。</div>

- ・説明資料を用いて、ラウンド②、③の移動について確認した。



ワールドカフェの説明資料

ラウンド①

(15分) ※ワールドカフェにおいては、1回のグループ協議を「ラウンド」と呼びます。

- ・小1～小4担当(8人)、小5～中1担当(8人)、中2～中3担当(8人)の3つのグループに分かれた。
- ・各グループに準備した拡大指導案を用いて、授業の視点に沿った手立ての成果と課題を確認した。
- ・確認した成果と課題を基に改善の手立てを検討した。

実践のポイント

意見が言いやすいように、拡大指導案に直接付箋を貼りました。学習過程のどの段階に課題や成果があるのかが、視覚化されます。



拡大指導案を用いた協議

ラウンド②

(10分)

- ・小1～小4担当、小5～中1担当、中2～中3担当の各グループを、B(3人)、C(3人)及びホスト(2人)の3つに分けた。B、Cは他の2つのグループに移動した。
- ・8人そろったら、ホストは、自分たちのグループで話し合ったことを説明した。
- ・グループの拡大指導案を基に、ラウンド①で話題になったことに基づいた意見を述べ、グループで協議を進めていった。

実践のポイント

違う学年担当の先生の意見を短時間で聞くことができるので、小中の先生方が意見交流をするには適した協議の形式です。



移動した後のラウンド②の様子

ラウンド③ (10分)

- ・ B、Cは移動してないもう一方のグループに移り、ラウンド②で話題になったことに基づいた意見を述べ、グループで協議を進めていった。

実践のポイント

協議を深めるには、一人一人が授業の視点を意識して参観することが大切です。

実践のポイント

ねらいに対する具体的な手立ての有効性について絞り込んだ協議ができるように、授業の視点を設定しています。



ラウンド③の様子

最終ラウンド (15分)

- ・ B、Cは最初のグループに戻り、移動したグループで得た意見を共有し、協議を深めた。
- ・ グループ別に発表した。

ファシリテーター

「他のグループで話し合いをしてきた先生方で、どんな意見が出たか、紹介してもらえますか。」



最終ラウンドの様子

「一番話題になっていたのは、授業の視点に対する教師の支援の在り方です。」

事後の取組

研究会終了後、5W1Hのシートに沿って今後の実践計画を立てました。

5W1Hシート

2014年 月 日

○話された内容や取り組みの具体例を記入をお願いします。

	具体策	チェック欄
誰が? 誰に? 取り組み担当者	・私が 各グループに ・子ども一人一人に	
何を? 対象	・児童生徒を ・話し合いの際の資料として	
いつ? タイミング、時間	・〇〇の授業で ・グループ活動の話し合いのとき	
どこで? 場所 どんな点で どんな立場で	・子どもの活動の場で ・各授業の内容に応じて ・総合の時間や国語の授業において	
どうして? 何のために? 目的・理由	・子どもたちの人間関係形成力が弱いことから ・話し合いの方法を習得させるため	
どのようにして? 手段・実現方法	・教師が積極的に手本を示し、良好な人間関係形成の手助けとする ・自分の考えを説明したり、友人の考えを受け止めたりする資料として活用する	

5W1Hのシートの記入例

項目	具体策	チェック欄
○誰が 人物名 行動主体	自分	
○何を 対象 操作対象	2年1組の子どもたち	
○いつ 時間 タイミング	毎月の活動や各教科において	
○どこで 場所 舞台	スリーマイルや学習合宿等で	
○どうして 何のために 目的・理由	話し合いを一方で行いせず、自分の立場で意見を述べられるように	
○どのようにして 手段 実現方法	3人組による話し合い活動を通じて 板書にも、表現はかみ身に付けさせた。	

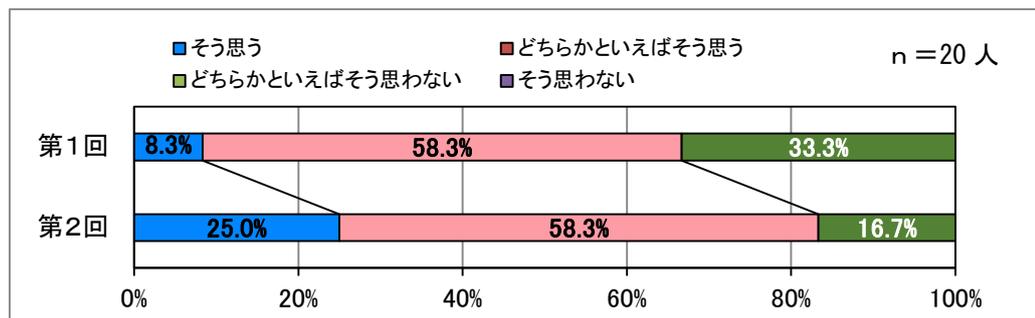
※提出は早めをお願いします。

実際のシート

実践を終えて

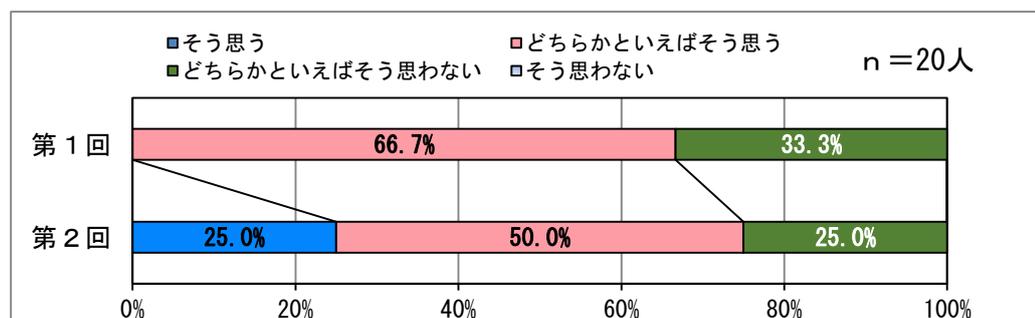
実践後の第2回意識調査の結果は、以下のようになりました。

ア I-1-①「研究目標や研究の方向性を理解していますか」について



ア I-1-①「研究目標や研究の方向性を理解していますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 66.6%、第2回 83.3%となり、肯定的な回答が、16.7ポイント増加しました。

イ I-1-③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」について



イ I-1-③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 66.7%、第2回 75.0%となり、肯定的な回答が、8.3ポイント増加しました。日々の教育実践に生かした内容として具体的に記述されている内容は以下のとおりです。

- ・実践できる内容を出していく。
- ・協議で出た課題に対する手立てについて話し合う。

以上の結果から、指導案拡大法を用いたことで、協議の視点が明確になり、話し合いを深めることができたと思われます。また、指導案拡大法とワールドカフェを組み合わせた協議を実施したことで、協議内容を全体で共有することにもつながったと思われます。さらに、研究会後に、協議した内容を基に5W1Hを用いて具体的な実践計画を立てたことで、日々の教育実践に生かそうとする意識が高まったと思われます。

今回の実践で、小・中学校の壁を越えて協議をすることができました。このことは、今後の校内研究において、小・中学校の教師全員の意見を生かした校内研究の取組につながると思います。